

今話題の地 倶利伽羅合戦(木曾義仲)と万葉集(大伴家持)をめぐる!

【行程】

小坂公民館⇒⇒⇒⇒⇒ 倶利伽羅源平の郷埴生口・埴生護国八幡宮・若宮古墳⇒⇒⇒⇒⇒  
 9:20(発) 10:00 10:50  
 (昼食)⇒⇒⇒⇒⇒ 万葉集歴史館⇒⇒⇒⇒⇒ 勝興寺⇒⇒⇒⇒⇒ 小坂公民館  
 12:00 12:50 13:00 14:00 14:10 14:50 16:00(着)



◆埴生護国八幡宮

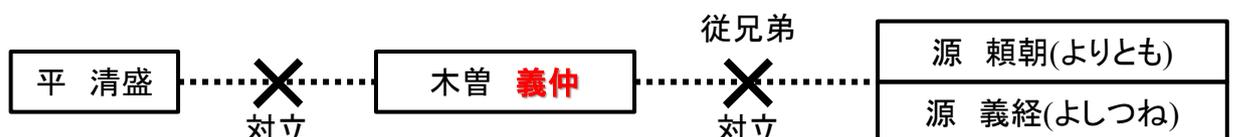
- ・主祭神…八幡大神(やはたのおおかみ) 産業・文化・勝運の神
- ・奈良時代…創建の正確な年代は不明。養老2年(718年)に宇佐八幡宮の御分霊を迎える。越中国守大伴家持が国家安寧・五穀豊穡を祈願する。(在任期間…746~751年)
- ・平安時代…寿永2年(1183年)5月、木曾**義仲**は倶利伽羅峠で二倍の軍勢を率いる平維盛の大軍と決戦するに当たり、埴生に陣をとり、当社に戦勝を祈願する。
- ・戦国時代…蓮沼城主遊佐慶親、武田信玄、佐々成政など、戦国武将の信仰篤く祈願する。1600年前田利長が大聖寺へ出陣の際に祈願し、御帰陣の際に本殿を寄進する。
- ・江戸時代…加賀藩前田家の祈願社として利長の病氣祈願や安産祈願を行う。
- ・境内…**義仲**の騎馬像と源氏軍が鳩の案内で得たという名水「鳩清水」がある。蓮沼城主遊佐慶親の寄進による103段の石段がある。
- ・社殿…大正13年に国宝となり、戦後は国指定重要文化財となっている。

◆木曾義仲に関わるおもな出来事

- ・1154年 **駒王丸**(後の**義仲**)は、武蔵国(今の埼玉県)で源義賢の次男として生まれる。
- ・1155年 父・義賢が大蔵合戦で源頼朝の兄義平により討たれる。**(駒王丸2歳)**  
 義平は畠山重能に**駒王丸**殺害を依頼。**駒王丸**、逃げる途中に**斎藤別当実盛**と出会い木曾の中原兼遠のもとに預けられる。
- ・1156年 **保元の乱**…崇徳上皇と後白河天皇が皇位継承をめぐり源氏・平氏の武力を使った戦いで、この二つの武家は中央政界での地位を確立する。
- ・1159年 **平治の乱**…平家のトップだった平清盛が源氏のトップだった源義朝を破ったことにより、平清盛の全盛期を迎える。
- ・1166年 **駒王丸**、元服して木曾次郎**義仲**を名乗る。
- ・1180年 平家の横暴に対して以仁王(後白河上皇の子)が平家討伐を全国の武士に命じる。9月、**義仲**が挙兵する。(27歳) 樋口兼光、今井兼平、巴(3兄弟)とともに
- ・1181年 **義仲**、平家方の城氏を横田河原の戦い(長野市)で撃ち破り北陸の武士勢力を拡大
- ・1183年 5月、**義仲**、倶利伽羅合戦で奇襲作戦「火牛の計」により平家の大軍を撃ち破る  
 6月、**義仲**、篠原の合戦で再び維盛らと戦い平家軍総崩れ。**斎藤実盛**は、「最後こそ若々しく戦いたい」と、白髪頭を黒く染めて戦った。(73歳)  
 7月、**義仲**、京へ進軍。後白河法皇より「朝日將軍」の称号を賜る。  
 11月、**義仲**、後白河法皇と対立、法皇は源頼朝に**義仲**追討の命を出す。
- ・1184年 源頼朝が派遣した義経らの軍に敗れ、近江の粟津で討ち死にする。(31歳)

◆巴御前

弓の名人であり武勇で知られる鎌倉時代の女武将です。諸説あるが、中原兼遠の娘で、樋口兼光・今井兼平の姉妹、**義仲**の妾と言われている。  
 1180年、**義仲**が挙兵すると共に行動し、倶利伽羅峠の戦などを経て京に入る。  
 1184年、**義仲**が鎌倉勢に敗れて討死すると、巴御前のその後には諸説あるが、晩年はゆかりのある越中を訪ね尼になったとも。(91歳)



◆若宮古墳

- ・前方後円墳(全長50.2m)で、埴輪が出土置  
後円部…径約28m・高さ約5m、前方部…の幅約19m・高さ約4.4m
- ・築造時期…6世紀初頭
- ・埋葬品…後円部中央に埋葬施設(竪穴式)があり、大刀や勾玉、三輪玉など
- ・指 定…1985年(昭和60)に市指定史跡 1993年(平成5)に県指定史跡

◆万葉集歴史館



★能登に入って最初の歌  
之乎路(しをぢ)から 直超え来れば 羽咋の海  
朝風(な)ぎしたり 船梶もがも

★能登島について  
鳥総(とぶさ)立て 船木伐るといふ 能登の島山  
今日見れば 木立繁しも 幾代神びそ

★熊木について  
香島より 熊木を指して 漕ぐ船の  
梶取る間なく 都し思ほゆ

◆勝興寺(浄土真宗本願寺派)

- ・1471年…本願寺八世蓮如上人が、越中の布教の拠点として、現在の南砺市福光土山に土山坊を開く。蓮如の子孫が代々住職を務め、真宗王国越中における代表的寺院となる。
- ・1517年…佐渡にあって廃絶していた順徳上皇勅願所「殊勝請願 興行寺」から「勝興寺」となる。  
戦国時代には、越中一向一揆の旗頭として活躍し、甲斐武田信玄、佐々成政、越前朝倉をはじめとする戦国大名や、本願寺、京都公家などとの関係を深めていく。
- ・1584年…二度の移転を経て、現在の高岡市伏木古国府に移る。  
藩政時代に入ると加賀藩前田家との関係を深めるようになり、越中における浄土真宗の触頭となる。
- ・1771年…勝興寺の住職であった治脩(加賀藩六代藩主吉徳の10男)は、隠居を望んだ十代藩主重教の命により還俗して加賀藩十一代藩主に就いた。
- ・境 内…土塁・空濠で囲まれており、奈良時代の越中国府跡と伝承され、大伴家持が国守として5年間在任したとされている。